

Dropbox Business 導入ガイド

はじめに

この度は Dropbox Business をお選びいただき、ありがとうございます。このガイドの手順に沿ってセットアップ プロセスを進め、スムーズな導入を目指してください。Dropbox Business に移行すれば、チームで常に組織的に動いて共同作業に取り組めるようになり、すべてのデータを安全に守ることができます。

管理者としては、チーム メンバーの追加や削除が簡単に行えるだけでなく、共有のアクティビティを監視して社内データを保護できます。チームのセットアップを別の人に任せることもできます。

[こちらをクリックして、管理者の追加と変更の方法を参照してください。](#)

このガイドには、主なお客様からご提供いただいたベスト プラクティスがまとめられていますので、セットアップ プロセスを進めるうえでの参考にいただければ幸いです。Dropbox Business の導入は、要件や複雑さによって変わりますが、約 4～12 週間で完了します。信頼性に優れたヘルプセンター、コミュニティ フォーラム、YouTube 動画、自習型トレーニングなど、サポート リソースも豊富にそろっておりますので、ぜひご利用ください。

では、始めましょう！

目次

フェーズ 1 把握と 計画

- Dropbox の使い方を学ぶ
- デスクトップ アプリケーションのインストール
- ハード ドライブの容量を節約
- アカウントの保護
- チーム全体の権限を設定
- テスト ユーザーの特定
- ユーザーのプロビジョニングを計画
- グループのセットアップ
- チームに共同作業用のスペースを割り当てる
- サード パーティ製アプリとの統合
- フェーズ 1 チェックリスト

フェーズ 2 構築と 試験運用

- チームへの説明
- テスト ユーザーのオンボーディング
- テスト ユーザーのトレーニング
- よくある質問

フェーズ 3 有効化と 運用開始

- エンド ユーザーのトレーニング
- 補足資料

フェーズ1 把握と計画

把握と計画は、Dropbox Business の導入が組織内で成功するかどうかを左右する重要なフェーズです。まず、アーキテクチャと設定に関して、現在どのようなニーズがあるかを確認し、それからサードパーティ製品の統合の必要性を検証します。

Dropbox の使い方を学ぶ

オンラインのトレーニング コースでは、自分のペースで Dropbox の活用方法を学ぶことができます。Dropbox の基本をしっかりと理解し、Dropbox を使用し始めたばかりのチームに、今までとは違う新しい方法で知識を伝えることができます。トレーニングは必要なときにいつでも、どこにいても、また、どのデバイスからでも受講できます。

[自習型トレーニングを受講する](#)

管理者向けトレーニングとヘルプ デスク トレーニングでは、チームを管理しサポートする方法を学べますが、Dropbox を理解するために、まずチーム メンバー向けトレーニングから開始することをおすすめします。必ずメモを取り、皆さんがテスト ユーザーやエンド ユーザーに教える側に立ったときに、このトレーニングをどのように活用できるか考えるようにしましょう。

デスクトップ アプリケーションのインストール

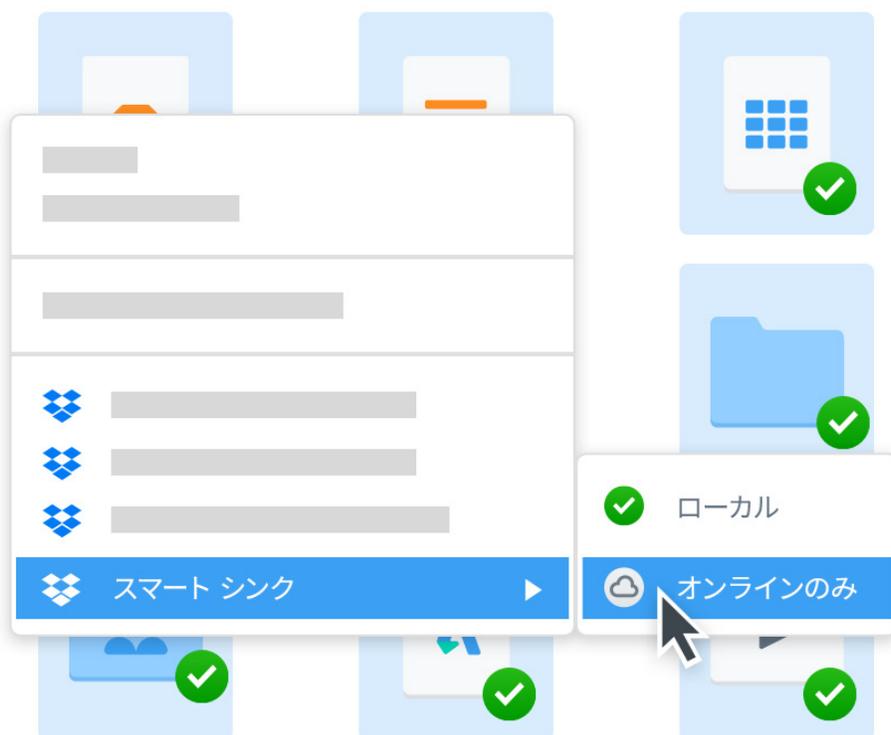
Dropbox では、Windows、macOS、Linux 用のデスクトップ アプリケーションを提供しています。下のリンクをクリックして、ご利用のパソコンに適したバージョンをインストールしてください。

<https://dropbox.com/downloading>

チーム メンバー全員のパソコンにまとめてインストールしたい場合は、企業の SCCM/ グループ ポリシーをサポートする管理インストーラーも使用できます (Windows のみ)。

[チーム メンバー全員のために Dropbox をインストールする](#)
[Dropbox を実行するためのシステム要件](#)

ハードドライブの容量を節約



Dropbox のスマート シンクという機能を使用すると、ハードドライブの容量をほとんど消費することなく、Dropbox に保存したすべてのファイルとフォルダにデスクトップから直接アクセスできます。チームのワークフローを変えることなく、数ギガバイトを節約できる優れた方法です。チームのスマート シンクを有効にして、どれだけの時間と容量を節約できるかをご確認ください。

[スマート シンクを有効にする](#)

アカウントの保護

2 段階認証（2 要素認証、2FA）を有効にして、パスワードのオプションを Dropbox 管理者が管理することにより、アカウントの保護を強化できます。別の方法として、シングル サインオン（SSO）プロバイダを統合し、プロバイダを通じて 2 段階認証を有効にする方法もあります。この方法だと、保護が強化されるだけでなく、チームメンバーは 2 つ目のパスワードを記憶しなくても Dropbox にアクセスできるようになります。

[2 段階認証を有効にする](#)

[SSO を設定する（Advanced プランと Enterprise プランのみ）](#)

チーム全体の権限を設定

Dropbox では、特定の設定を細かく管理することができます。テスト ユーザーを招待する前に、組織に適した設定が施されているかどうかを確認してください。

[権限の確認と設定](#)

テストユーザーの特定

Dropbox をチームメンバー全員に導入する前に、テストユーザーを何人か選択して設定をテストします。たとえば、(1) IT チームだけをテストユーザーに選んで、Dropbox アカウントの設定、説明、トレーニング計画をテストする、(2) 上級ユーザーのグループを選択する、(3) 社内の 1 部門を選択する、といった方法が可能です。

ユーザーのプロビジョニングを計画

招待を送信する前に、ユーザーをプロビジョニングする方法を確認しましょう。方法は、現在の環境や、社内の IT アプリケーションのプロビジョニング状況によって異なります。

オプション 1：管理コンソールを利用

テスト ユーザーや少人数のチームにおすすめの方法です。

1. 管理者のアカウント情報を使用して、dropbox.com にログインします。
2. [管理コンソール] をクリックします。
3. [メンバー] ページで、[メンバーを招待] をクリックします。
4. 招待するユーザーのメール アドレス（一度に 100 件まで）を入力し、[招待を送信] をクリックします。

オプション 2：統合を利用

SSO を使用している場合や実装を予定している場合におすすめの方法です。

- [Active Directory Connector](#)
- [アイデンティティ管理プロバイダ \(IDP\)](#)

大規模な導入時に検討すべきこと

チーム メンバーが大勢いる環境に Dropbox Business を導入する際には、グループやチーム スペースのサイズ設定に関する、最新のガイドラインを参照してください。これを元に、グループ、フォルダ構造、チーム全体の設定を計画するとよいでしょう。

大規模な導入時に検討すべきこと

注意：Dropbox Business は定期的にアップデートされていますので、最新のガイドラインを適宜参照していただくことをおすすめします。

グループのセットアップ

グループでは、部署別チームやプロジェクト チームなど、同じ情報へのアクセスが必要なメンバーのリストを作成して管理することができます。グループ メンバーは、グループが招待されている共有フォルダに自動的に追加されます。

[グループの確認と設定](#)

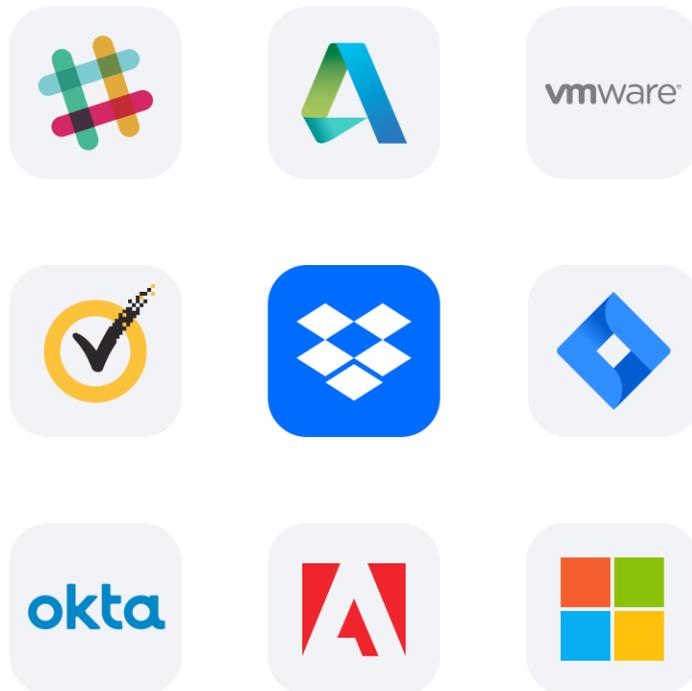
チームに共同作業用のスペースを割り当てる

チーム フォルダは、チームで企業コンテンツを共有するための優れたツールです。チーム フォルダでは次のことができます。

- すべてのグループ メンバーでチーム フォルダのコンテンツを自動的に同期
- チーム フォルダ内のファイルやフォルダを個別に選んで共有
- 適切なチーム メンバーに適切なフォルダ レベルでのアクセスを明示的に許可

[チーム フォルダの確認と設定](#)

サードパーティ製アプリとの統合



多くのサードパーティが、Dropbox が提供する安定した API を使用して、Dropbox とシームレスに連携するアプリケーションを開発しています。社内で使用しているアプリが Google、Microsoft、Adobe、Slack、Atlassian、Salesforce のいずれでも、Dropbox との統合を利用できるので、チームで作業する際にツールを切り替える、作業ファイルを複製するなどの必要がありません。さらに Dropbox は、最高水準のセキュリティを提供するパートナー、Okta、VMware、Symantec、Netskope とも統合しています。

サードパーティ製アプリと連携

Dropbox は、チームとユーザーの両方に対して API エンドポイントの強力なネットワークをサポートしています。そのため、管理者のワークフローを迅速化し、Dropbox とアプリを簡単に統合することができます。

API の確認とアプリの開発

フェーズ1 チェックリスト

アカウントにセキュリティは設定されていますか（2FA、SSO、IDP）？

Dropbox の導入に必要な要件を文書化して定義していますか？

管理コンソールでアカウントを設定していますか？

ユーザーが Dropbox アプリケーションを入手する方法を文書化して定義していますか？

ユーザーをオンボーディングする方法とオンボーディング パスを文書化していますか？

会社用の説明テンプレートの案を作成していますか？

Dropbox の自習型トレーニングを受講し、ユーザーのトレーニング方法について検討しましたか？

ユーザーへの導入の際のグループ分けを確認しましたか？

フェーズ 2 構築と 試験運用

Dropbox Business アカウントのセットアップが完了しました。次は環境のテストです。すべてのエンド ユーザーを招待する前に、テスト ユーザーのオンボーディングを行います。

チームへの説明

エンドユーザーへの効果的な説明は、組織に Dropbox を導入するうえで成功の鍵を握る重要な要素です。以下に、出発点として使用できる、応用可能な例をいくつか紹介します。次のような内容を説明に入れるように検討してください。

- ・ エンドユーザーが Dropbox アカウントを取得できるのはいつか？
- ・ エンドユーザーはどのようにして Dropbox にログインするのか？
- ・ Dropbox のエンドユーザーに何を期待するのか？
- ・ Dropbox にどのアプリケーションを統合すれば、エンドユーザーに満足してもらえるか？

変更を成し遂げるには、説明が重要です。その作業を簡単にするためのツールとして、[こちら](#)に、おすすめの説明を記載したメール テンプレートをご用意しました。IT チームやエグゼクティブ、テストユーザー、エンドユーザーへの説明にご利用ください。

テストユーザーのオンボーディング

Dropbox に招待するテストユーザーの最終リストを作成します。フェーズ 1 で紹介したユーザーのプロビジョニング方法と、上記の説明用テンプレートを使って、リストアップしたテストユーザーをチームに招待します。

テストユーザーのオンボーディング プロセスでは、ユーザーに数日かけてテスト ケースを検証してもらい、要件が期待に添っているかどうかを確認することをおすすめします。テストを成功させるために、テストユーザーへの説明やトレーニングなど、ユーザー エクスペリエンスとオンボーディング プロセスをすべてテストし、エンドユーザー全員に導入する前に変更すべき点はないかどうかを確認します。

テストユーザーのトレーニング

テストユーザー向けトレーニングは、大規模な導入前に少人数のオーディエンスを対象として学習能力をテストできる貴重な機会であり、その結果をもとに、説明やトレーニングプランに対して必要な変更を行うことができます。

トレーニング方法の開発では、ユーザーをさまざまなセグメントに分類し、学習ニーズとスタイルの両方のニーズを満たせるようにすることをおすすめします。

チームのトレーニング

よくある質問

ユーザーが、招待されたメール アカウントに関連付けられている Basic アカウントや Plus アカウントをすでに所有している場合は、どうすればよいですか？

ユーザーが個人用アカウントを所有していて、仕事用のアカウントとは別にしたいと望んでいる場合は、どうすればよいですか？

Dropbox にすでにチームが存在している場合、それを新しいチームに統合できますか？

サーバーからデータを移行するには、どうすればよいですか？

フェーズ 3 有効化と 運用開始

テストユーザーで、アカウント設定、ユーザーのオンボーディング、説明やトレーニングなどの導入計画をテストしたら、次は Dropbox を組織全体に導入します。

エンドユーザーのトレーニング

Dropbox へ移行するユーザーをサポートし、トレーニングすることは、導入の成功に欠かせないプロセスです。エンドユーザーをサポートする機会を積極的に設けることで、IT 関連の経費を減らし、全面導入に備えてユーザーの関与と参加を促すことができます。この時期を利用して、試験運用中にテストした計画をもとにユーザーのトレーニングを実施しましょう。

トレーニング方法の開発では、ユーザーをさまざまなセグメントに分類し、学習ニーズとスタイルの両方を満たせるようにすることをおすすめします。

チームのトレーニング

これで完了です！

Dropbox をチームに導入する準備がすべて整いました。

なお、Dropbox については、今後も変更に関する最新情報を常にチェックしていただくことが重要です。以下に補足資料をいくつかご紹介します。

[Dropbox について \(ヘルプセンター\)](#)

[Dropbox のサポートに連絡する](#)

[Dropbox のステータスを確認する](#)

